



前回の続き
催眠にかかった
伊○知○歌。

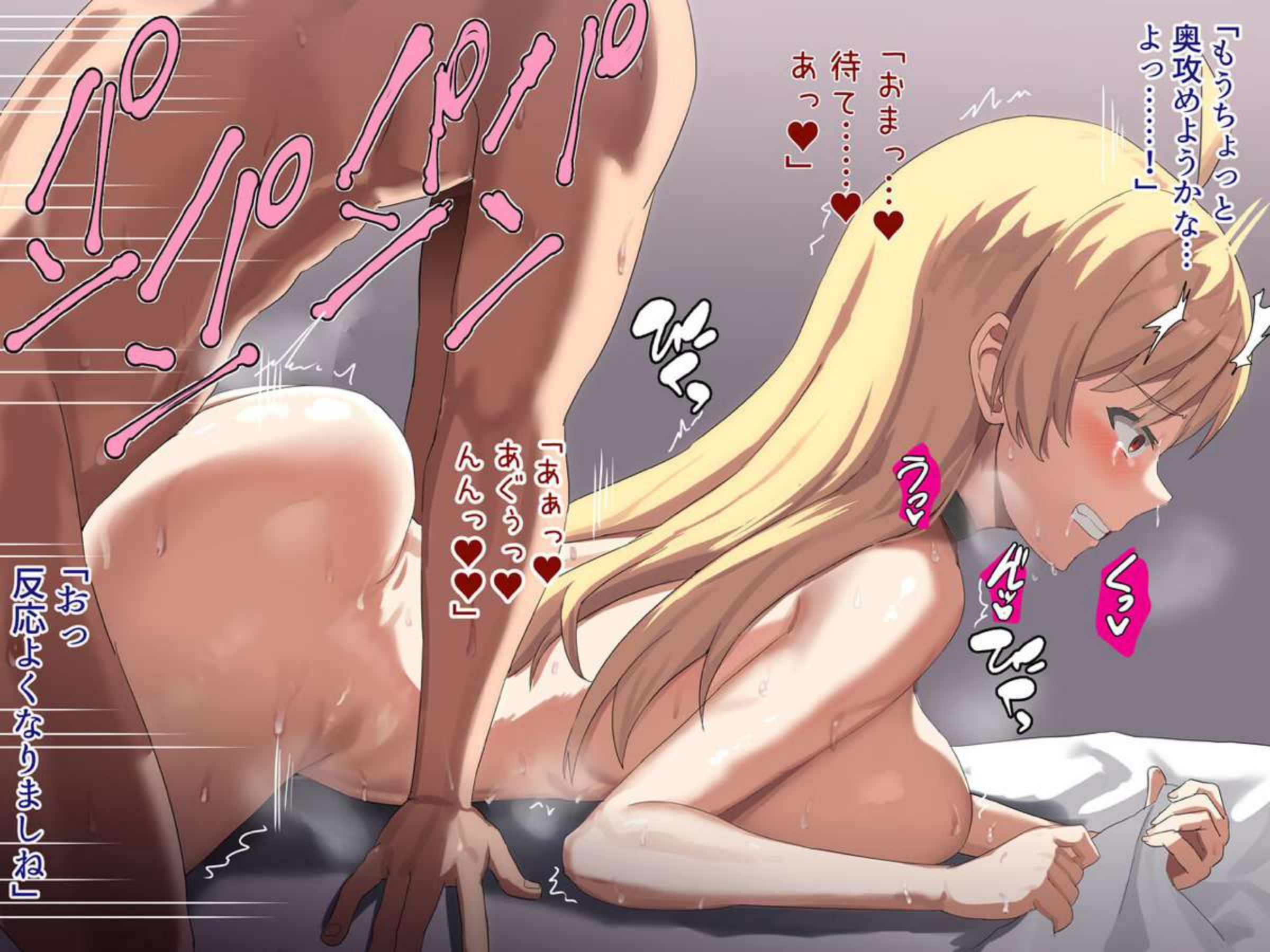


「もうちよつと
奥攻めようかな…
よっ……！」

「おまっ……
待て……
あっ♥」

「ああっ♥
あぐうっ♥
んんっ♥♥」

「おっ
反応よくなりましたね」





カ
ン
ン

ヒヤヒヤッ

ヒヤッ

ヒヤッ

ヒヤッ



「おっ
すげー射精る……！
星歌さん
やはり俺たち
相性がいいみたいですわね」

「はああっ♡♡
あぐっ♡♡」

ビク

ビク

ビク

あぐっ♡♡
あぐっ♡♡

「まだ射精てる
……♡♡♡♡」



「それじゃあ
口でも
抜いてもらいましようかね」

「んふっ♡ぢゅるっ♡
ぢゅるっ♡」

んふっ♡



「そんなに

ほうばって

俺のチンポは

気に入りましたか？」

「うるわしい♡

ちっちと射精せっ♡」



ぐわんぐわん

♡ん♡ん♡

♡ん♡ん♡

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

♡ん♡ん♡

ぐわんぐわん

「うおっ！」

そんなに激しくしたら」

「想像以上でしたよ…!!
ご褒美にザー汁あげるんで
たっぷり飲んでください。」

「んんんっっ♡んぐっ♡
んんんんっっ♡♡♡♡♡」





激しく
アツク
アツク

アツク

アツク

アツク

アツク

アツク
アツク
アツク

アツク
アツク
アツク

アツク
アツク
アツク

アツク
アツク
アツク

アツク
アツク
アツク

「そんな事言つて
めっちや締め
よくなつてますよ」

ぐんぐん

んん

んん

おっちやん

おっちやん

おっちやん

おっちやん

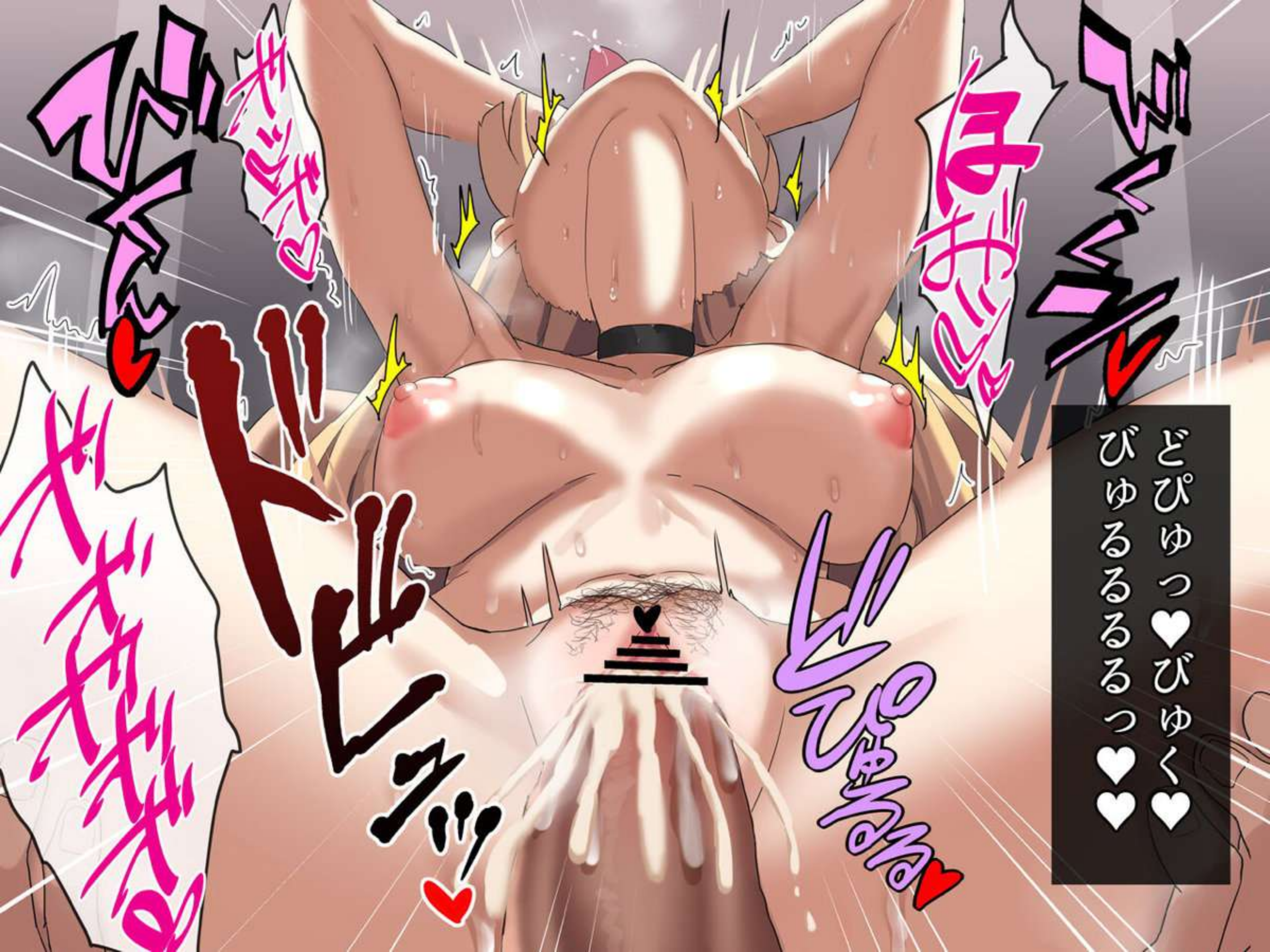
おっちやん

おっちやん

ちゅちゅ

ちゅちゅ





ドクドク

ドキドキ

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドキドキ

ドキ

ドキ

どぴゅっ♡びゅく♡
びゅるるるっ♡♡

「んあっ♡はーっ♡
はあっ♡」

んんん

んんん

「はーっはーっ、
金玉の中身全部だしたぞ」



「ほらこれが
星歌さんのまんこに
入ってたチンポですよ
しっかり掃除してくださいね」

びび

びび

「やば………はっ♡
♡………♡」

「またパコリ
ましうね……！」

































